

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100502		
法人名	有限会社 アテネ		
事業所名	グループホーム きんもくせい		
所在地	大分市大字下判田3795番地1		
自己評価作成日	平成27年3月13日	評価結果市町村受理日	平成27年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokansaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kan=true&lgvgyosyoCd=4490100502-00&PrefCd=44&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	平成27年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が施設理念を念頭に置いて、入居者一人ひとりがその人らしく安心して生活が出来る支援を常に心掛けています。また、きんもくせいでは厨房からの食事提供をしていることから、本来のグループホームでの食事づくりに費やす時間を入居者さんと共にお話しやレクリエーション等をする時間にする事でより密な関係作りを築き上げることができています。スーパーや朝市、施設前には駅や田んぼなどの環境にも恵まれていることから、定期的な屋外レクの参加もしており、地域の方と触れ合うこともできます。ご家族様の参加をも得られていることにより、交流を深めることが出来、ご家族の思いに寄り添い、尊厳や願いを尊重した取り組みを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護支援を展開する法人の実績や経験を活かし、新たに認知症の方の暮らしを支える事業所として平成26年4月に開設されています。法人の基本理念①笑顔②自宅のような環境③自分が入所したくなる施設④自立支援⑤祖父母と思ひ世話をする⑥職員の介護技術の向上、この6本柱を理念とし職員は共有と実践に繋げています。開設時から管理者とともに、職員育成を課題として毎月の勉強会や利用者の身になって考えようとする姿勢を目標に掲げ、連携強化や情報の共有化及びケアの統一に繋げています。職員の明るく寄り添うケアや、繰り返しの言葉にも丁寧に対応する姿勢が伺えました。開所一年の事業所でまだこれからであり一つ一つ勉強され、管理者、職員とも一丸となって取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	外部の方にも目のつく場所に掲示しており、職員には会議での確認と共有をして実践に繋げています。	法人の理念を基本とし、月1回のモニタリング会議で理念の共有を再確認するとともに、事例報告では理念を踏まえ全員で検討し、「一日一度は大きな声で笑う」を心掛け実践に繋げています。	日々のケアの中で理念の共有、実践が活かされており職員間で努力されています。今後も地域密着型サービスの役割を明確に地域福祉の核となるべく、事業所のあり方を目指されるよう期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地区のお店や朝市を利用して近隣の方との交流を図っています。またお互いの行事には参加を心がけています。	自治会に加入し、相互の行事参加を通じて交流を積み重ねています。毎週開催される「朝市」には、利用者とともに出かけ、近隣の方々と会話をしたり、事業所の空き地を地区の避難場所に指定する等地域交流及び協力関係を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症についての事例や取組の発表を行い、情報を発信するとともに、地域の方々に認知症になっても安心して暮らせる地域づくりに励んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では近況報告をするとともに地域の方やご家族の方から貴重な意見をいただいています。会議等で共有し話し合いを行い、施設の運営や支援に反映し、質の向上に努めています。	運営推進会議は2ヶ月毎に、事業所で開かれています。参加者からの意見や提案、及び地域情報を把握する機会としてサービス向上に反映させています。運営推進会議が地域の理解と支援を得る為の貴重な機会と捉えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは連絡をとって相談をし、意見や助言などの協力を頂いています。また市開催の研修や講座には積極的に参加しています。	運営推進会議に市の担当者が参加しており、事業所の情報や取り組みについて報告し、意見やアドバイスをもらい、行政との協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関しての勉強会は会議にて行い、理解把握はしていたが、駅が近いということもあり玄関の施錠をしていました。見守りの徹底を行い夜間のみ防犯上の理由にてされています。	身体拘束は「基本できない」という共通認識はできています。強い口調も心理的な負担になることを再確認し、業務が多忙になるにつれ、言葉つかいや対応に無意識のうちに現れることもあり、管理者は職員の話や聞く等ストレス軽減に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に参加し、職員会議にて共有と話し合いの場を設けています。職員が虐待につながるストレスや不安を抱え込まないような職場環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて研修を開き、理解と共有に努めるもまだ研修、経験ともに浅く理解や活用するまでには至っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約においては施設長あるいは管理者が行っており、ご本人、ご家族の思いや希望を聞きケアに反映させることなど十分に説明し、納得、承諾の上で署名、捺印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には出席をしていただき、意見や要望を言うていただく場を設けており、面会時にも積極的に職員からの声掛けを心掛けてお話を聞き、要望等があればその都度職員で共有、改善をしています。	利用者と、日頃からコミュニケーションの充実を図り、意見の言い易い関係作りに取り組みむとともに、家族には、運営推進会議や面会時に積極的に話す機会を持ち、遠慮のない意見を出してもらい、中には連絡帳を持参し、職員との意見交換をされている方もいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議にて発言の場を設け、定期的に個人面談を行うなど意見交換や相談のしやすい環境作りを努めており、検討し運営に反映させています。	管理者は日々職員とのコミュニケーションを図り、意見や提案を収集し、職員全員で検討しサービスに反映させています。職員の相談に応じたり、適時のアドバイス等により、働き易い環境を築いています。	事業所では職員同士の良好な関係や風通しの良い関係が作れるよう努力されています。法人の他の施設の職員との交流や研修会等で更なる質の向上に努められる事を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況に負担のない配慮し、研修、資格取得等には積極的な支援を行い職員のやりがいへと繋げています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会や段階に応じた研修等を行い、個々のスキルアップを図っています。また研修や講座への参加の機会を多くしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	よりよい施設にするため、他施設への訪問や交流を心掛けているがあまり出来ていません。今後他事業所との交流の場を設け、サービスの質の向上をしていけるよう努めていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の訪問、面接または施設見学にてコミュニケーションを図るとともに、ご本人の現在の状況や思い、要望をお聞きしていました。安心した環境を提供できるよう情報収集に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接にてご家族様からの要望や不安なこと等を聴き、サービスに反映させるとともに、いつでも意見や要望が出しやすい環境や関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様と家族の方が何を必要としているのかを見極め、必要であるサービスであれば施設外サービスであっても説明、納得された上での対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当事業所の理念である自分の祖父母と思い、心を込めてお世話をするとともに、家族としてできることを一緒に行うことで時間を共有しています。また、得意とする事を発揮できるような環境作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の生活の様子や思い等伝えるようにしています。また、施設行事の参加の声掛けや、受診時にはできるだけご家族の方に同行してもらい、一緒に過ごす時間を持ていただくように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親せきの方などの訪問がいつでも出来るような環境に努め、ご本人様が語る馴染みの人や場所への想いをご家族に報告し、関係が途切れないよう支援に努めています。	利用者の希望で自宅に同行した際、近所の人と会話をしたり、家族の支援で馴染みの美容室に行ったり、遠方の家族・親類に年賀状を出したり、馴染みの関係が途切れない支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の趣味や考え等を尊重しながら、一人ひとりの居心地のよい場所を確保することで孤立することがなくなり、みんなで楽しめるゲームや作業などで利用者様同士が自然に関わりを持てる環境に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対処時には情報提供するとともに、対処後も必要であれば直接の相談や支援をさせていただきますようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員へ話しやすい環境の提供に努め、個々の想いや希望に応えられるよう職員間で話し合いを持ち、意思疎通の困難な方にはご家族の協力をもとに実現できるように努めています。	アセスメントには、これまでの生活習慣等を入所時に確認し、日頃の会話の中から思い等を把握しています。身体的には元気な利用者が多く意思表示もできるため、希望や暮らし方等の把握ができ、ケアに反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前よりご本人、ご家族等からの情報を元にその人らしい生活が送れる支援に努めるとともに、職員間で情報の共有をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックと心身の状態をケース記録に細かく記録する事により、1日の過ごし方や状態を把握することが出来ています。また、個々にあった運動等で残存機能の維持にも努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月職員全員でモニタリングを行い、本人、家族の意向をくみ取りながら、現状に即した介護計画を作成しています。	毎月のモニタリングや(短期目標)3ヶ月毎に評価し、(長期目標)6ヶ月毎に新たなプランを作成しています。プランに即したケース記録や個人申し送りノートに職員の観察(気づき等)結果や利用者、家族の意見や要望、主治医の指示など詳細に記載され全職員が共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録とは別にバイタル、排泄、食事状況を職員全員が周知できる形式にしています。また、気づきや工夫面をノートに記入し、申し送りや月に1度のモニタリングで話しあい職員間の情報共有にも努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応して「できるように」柔軟な支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域周辺の散歩や公園、お店へ出かけられており、地域の祭りやイベント参加への支援にも努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族との話し合いでかかりつけ医を決めています。かかりつけ医には必要な情報提供や連携で、緊急時にも速やかな対応が出来るようにしています。	利用者と家族の希望に添ったかかりつけ医・専門医療機関との連携(往診・受診)が図られています。受診は、家族同行を主に、利用者の状態や家族状況に応じた援助が行われており、結果は家族と共有し支援に繋げています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師により、個々の心身の状態は把握できています。職員からの気づきの報告により、適切な指示をし、主治医との連携もとれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関や家族と密に連絡をとり、面会時には情報交換や相談に努め、退院時の受け入れがスムーズには運ぶよう環境整備を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針の説明を行った上で契約をしています。終末期が近づいた場合は、主治医、家族、看護師、職員で今後の方向性を話しあい、共有し支援します。	利用者・家族の安心感を担う役割において、緊急対応マニュアル(連絡体制や状態の確認事項)や、重度化における指針について明確に示されています。看取りケアでは、“利用者・家族・施設・医療の連携”の必要性を意としており、支援の共有・体制づくりへの取り組みの姿勢が伺えます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルは常に目にする場所へ貼付してあるが、全職員の認識は出来ていないと思われるため、今後、看護師による指導を行い、実践力を身につけられるよう取り組んでいきたいです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月2回の防災訓練を施行し、毎日の防火設備の点検をしており、避難順路も掲示することで全職員の認知も出ています。地震時の想定訓練がまだできていない状況の為地域との協働体制も含め今後の課題です。	利用者の安全な避難に向けた実地訓練に取り組む中で、避難訓練2回(消防・自主)が行われており、消防署の報告・課題(迅速な避難誘導と利用者の安全対策の強化)から、職員のモチベーション向上の視点への検討・取り組みに努めています。	迅速な支援への取り組みとして、各ラインによる行動パターンの確立(マニュアル)と職員への周知、実践への活用を希望します。地域との連携による体制づくりの過程が見られ、自然災害を視野に含めた、全職員間での協議に期待が持たれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生き方や生活環境に配慮し、常に人生の先輩として尊敬の念をもって心を込めて接するようにしています。また、介助の際には、プライバシーを損なわない対応を、声かけを心掛けています。	認知症講習会(外部)の内容について、全職員間での討議が図られています。個人情報管理・秘密厳守・プライバシーの尊重(羞恥心)において、職員への周知に取り組んでいます。尊厳についての理解・実践における外部講師依頼の旨も有します。	個のスキルアップや、統一性を有するチーム援助への取り組み(各種研修内容の修得・支援から見える事例検討・協議)の大切さを公言しています。相互協調による職員力の向上に更なる期待が持たれます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員に気を遣うことなく思いや希望を言えるような関係作りを心がけ、自己決定できるように働きかけています。また、自力で表現するのが困難な方は、表情や言動で思いをとらえることが出来るよう接しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にし、体調や気分を考慮し、希望に添うように支援するよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面、整髪、整容には声掛け等で心配りをしています。更衣の際には好きな服を選んでいただいています。訪問カットの支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度誕生日会と称し、少し豪華な食事を提供したり、手作りパーティーや希望を聞いてのおやつ作り等を盛りつけや片付け、食器洗い等、状況や状態に応じて一緒にを行っています。	法人組織との連携のもとで、外食委託の調理形態にて配食されています。嗜好の把握と現況への着目にて、給食会議(3ヶ月毎)により、食状況の伝達や改善が図られています。食の工夫・変化(手作りや行事後の外食・お弁当)にも取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりに合わせた食事形態、量を提供し、季節感のある献立を考えています。また、脱水にも注意を払い、夜間にも水分補給を心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケアの支援を行っています。口腔内に不具合が生じた際には、家族へ相談し、歯科受診を勧めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンやサインを把握、共有し、トイレでの排泄の自立に向けた支援を心掛けています。	利用者の行動パターンや仕草を把握し職員間で共有する中で、個の利用者の状態に合わせた声かけや、排泄パターンを目安にした誘導に励んでいます。生活リハへの取り組みの視点からも、自立援助・トイレ支援に積極的に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認し、出来る範囲での運動、体操、歩行練習などに心掛けています。また、厨房や家族の協力のもと、便通のよい職員提供を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回ですが、拒否が見られる方や毎日入りたい方には他のフロアの協力依頼をしたり、本人の希望や体調に合わせた入浴時間の提供を心掛けています。	清潔保持・安全への取り組み、体調や状態、折々の思いの尊重(言葉かけのタイミング・羞恥心)への配慮を活かしながら、会話を大切に、リラックスできる雰囲気づくりに取り組んでいます。全職員での情報の共有をポイントに、援助に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身の状態に合わせ、日中の散歩やレクリエーション、布団干し等することで安眠できる環境を作っています。就寝時間が一人ひとり違う為、ホールで他者との会話、テレビ鑑賞を楽しんでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護師が行っていますが、全員の服薬状況がわかるように一冊のファイルに綴じて全職員が確認、把握できるようにしています。また、誤薬がないように複数の職員での確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々が自身の役割が感じられるよう、洗濯干しや食器洗いなどの得意とすることをしていただき、多彩なレクリエーションの提供により、毎日が同じことの繰り返しとならないよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添って出来る限り散歩や買い物へ行くなどの支援を行っています、また季節を感じられるよう、ドライブへ行く機会も設けています。	個々の利用者の思い(出たい・行きたい)の把握、気分転換(散歩・外気浴・買い物等)へのアプローチに努めています。適地の情報収集や、健康面や環境に留意しながらのドライブ、家族との外出、ベランダでのそうめん流しが行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には希望に応じ買い物、外出支援を行っています。出来ない方には、ご家族の了解のもとホームで管理し、希望に添える支援に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は基本的に自由に出来る様支援しています。手紙については、希望があれば代読や代筆のお手伝いをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当施設にはジオシステムと言う24時間換気システムを取り入れており、常に新鮮な空気、環境の中生活を支援させていただいています。共用部分は清潔に保ち、手作りの展示物で落ち着いた過ごせるような工夫に努めています。	集いの場づくりにおいて、衛生・安全面に着目する中で、居間での生活における気配りを大切に、家具の配置・季節の装飾品・利用者相互の人間関係等に着目しています。個の思いの尊重と協同レク、日常的なユニット間交流、季節の行事を通して、共に暮らす空間づくりに取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブル席は人間関係を考慮して配置を考えています。 また、窓際にはソファを置き、大きな畑を前にゆったりと過ごすことが出来、お話や昼寝が出来るようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッドやタンス以外は馴染みのある家具や身の回りの品で落ち着いた空間で毎日を過ごせるようにしています。 また、清潔に生活出来るよう、環境整備にも配慮しています。	利用者の心身の状態や動向を配慮した支援に取り組む中で、その人らしい生活空間・趣き(家具の配置や装飾品等)を大切に、安心な居室づくりへの配慮の様子が伺えます。家族の意向も踏まえつつ、職員間の情報の共有において、安全で和める環境づくりに取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立での移動や運動、移乗が安全に出来るように、手すりの設置や障害物のない環境を提供しています。また、改善が必要な時には随時話し合いの場を持ち、対応、対処しています。		